

研修名	依存症関連問題専門研修第2回 「臨床現場から見た依存症治療と地域での展開」
講師	うえむらメンタルサポート診療所 院長 上村 敬一 氏
開催日時	令和3年11月1日(月) 18:00~20:00
開催方法	オンライン(Webex Meetings)
申込者数	40名 (内訳:保健師、看護師、心理士、精神保健福祉士、作業療法士など)
研修の内容等	<p>依存症関連問題に携わる方を対象に、知識や支援手法を学ぶ場を提供することで、支援者の意識やモチベーションの向上を図り、依存症の当事者や家族が相談しやすい地域にしていくことを目的に、研修会をオンラインで開催した。</p> <p>今回は、臨床現場で依存症当事者の方と向き合いながら、病気だけでなく、その方の背景にある生きづらさなどを視野に入れた治療と支援の実際をご講演いただくとともに、コロナ禍での受診者の傾向なども実体験からお話しいただいた。</p>
参加者の声	<ul style="list-style-type: none">• アディクションに関する支援者の姿勢やメカニズム、福岡県作成のギャンブル依存のリーフレットなど新たな社会資源などを知ることができました。• 「その人がなぜお酒やギャンブルにはまらなければならなくなったのか？」という所を支援者はもっと考える必要がある、ということは、今後しっかり取り組んでいきたいと思いました。• 急性期病院に勤務していると、アルコール問題を抱えている人が搬送されてくることが多く、支援のあり方、考え方がこれで良いのかと模索しています。はなから断酒ではなく節酒で始めて良いことなど大変興味深かったです。• 依存症治療は我慢をいかに続けるかではなく、一緒に行き方を模索していくという部分をお聞きし、わかっていたつもりでも、つい「してはいけませんよ」という言葉が出てしまう自身に対し反省しました。• 支援者が一番偏見を持っているという先生の言葉は胸に刺さりました。• 大変わかりやすかったです。なぜハマらなくてはならなくなったのか、本当は何をしたかったのか？大切だと思いました。ぜひ実践で活かしたいと思いました。